

# 千葉県における自殺の統計【令和2年度版（令和元年統計データより）】

令和3年2月24日

千葉県衛生研究所

## I はじめに

人口動態統計による全国の自殺者数は、平成10年を境に急増し、毎年3万人前後の高い水準で推移してきたが、平成22年以降減少を続け、令和元年には19,425人となり、平成3年以来28年ぶりに2万人を下回った。

人口動態統計による千葉県の令和元年の自殺者数は983人であり、依然として年に約1,000人の方々が自ら尊い命を絶つという事態が続いている。

千葉県では、平成18年度から千葉県自殺対策連絡協議会を設置し、平成22年度から29年度（平成28年度に1年間延長）を期間とする「千葉県自殺対策推進計画」を策定した。また、平成28年4月の自殺対策基本法の改正や平成29年7月に策定された第3次自殺総合対策大綱を受け、平成30年度から令和9年度を期間とする「第2次千葉県自殺対策推進計画」を策定した。

衛生研究所では、自殺に関する統計をとりまとめ、平成19年度から本書を公表している。本書が、自殺対策を推進するための基礎資料として役立てば幸いである。

## II 方法

千葉県の自殺の現状とその関連要因の把握のため、既存の統計資料を用いてデータの整理を行なうとともに、健康福祉センター（保健所）・市町村別の自殺死亡率、標準化死亡比を算出した。

### 1 用いた統計資料

(1)厚生労働省「人口動態調査」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450011&tstat=000001028897>

(2021/2/15 確認)

(2)千葉県健康福祉部健康福祉指導課「千葉県衛生統計年報（人口動態調査）（平成27年～令和元年）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenshidou/toukeidata/kakushukousei/eisei/index.html>

(2021/2/22 確認)

(3)総務省統計局「人口推計」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200524&tstat=000000090001>

(2021/2/15 確認)

(4)千葉県総合企画部統計課「千葉県年齢別・町丁字別人口調査における登録人口」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/nenreibetsu/index.html> (2020/8/24 確認)

(5)厚生労働省自殺対策推進室「地域における自殺の基礎資料（平成31年・令和元年、令和2年）」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000140901.html> (2021/2/5 確認)

(6)厚生労働省「人口動態に基づく自殺死亡数及び自殺死亡率」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jinkou-doutai-jisatsusyasu.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jinkou-doutai-jisatsusyasu.html) (2020/10/30 確認)

(7)厚生労働省自殺対策推進室、警察庁生活安全局生活安全企画課「令和元年中における自殺の状況」

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/jisatsu.html> (2020/3/17 確認)

(8)千葉県警察本部生活安全部人身安全対策課「自殺統計原票データ」（平成25年～令和元年に県内で発見され、警察の捜査に基づき、死亡原因が自殺と判断されたもの）※千葉県警察本部から受領

(9)厚生労働省「令和2年版自殺対策白書」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsu](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/jisatsu/jisatsu)

hakusyo2020.html (2020/10/30 確認)

(10)総務省統計局「労働力調査」＜参考＞（基本集計）都道府県別結果（平成20年～令和元年）

<https://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/index.html> (2020/6/10 確認)

(11)千葉県精神保健福祉センター「精神保健福祉センター年報（平成27年度～令和元年度）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/cmhc/nenpou/index.html> (2021/1/4 確認)

(12)社会福祉法人千葉いのちの電話「令和2年度版事業案内」

<http://www.chiba-inochi.jp/report/> (2020/11/20 確認)

(13)千葉県防災危機管理部消防課「消防防災年報（平成21年版～平成31年版）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shoubou/nenpou/index.html> (2020/5/29 確認)

(14)文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（平成27年度～令和元年度）」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400304> (2020/11/19 確認)

(15)文部科学省「学校基本調査（平成27年度～令和元年度）」

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>  
(2020/7/17 確認)

(16)厚生労働省「福祉行政報告例（平成22年度～令和元年度）」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/38-1.html> (2021/2/5 確認)

(17)厚生労働省「被保護者調査（平成21年度～平成30年度）」

[https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450312&result\\_page=1](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450312&result_page=1)  
(2020/8/11 確認)

(18)自殺予防総合対策センター「自殺対策のための自殺死亡の地域統計 1983-2012」

[https://jssc.ncnp.go.jp/archive/old\\_csp/genjo/toukei/index.html](https://jssc.ncnp.go.jp/archive/old_csp/genjo/toukei/index.html) (2021/2/15 確認)

**【参考】厚生労働省の「人口動態統計」と警察庁の「自殺統計」の違い**

### 1 日本における外国人の取扱いの差異

自殺統計（警察庁）：日本における日本人及び外国人の自殺者数

人口動態統計（厚生労働省）：日本における日本人のみの自殺者数

### 2 調査時点の差異

自殺統計（警察庁）：捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上

人口動態統計（厚生労働省）：自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは原因不明の死亡等で処理しており、後日原因が判明し、死亡診断書等の作成者から自殺の旨訂正報告があった場合には、遡って自殺に計上

### 3 計上地点の差異

自殺統計（警察庁）：発見地に計上

人口動態統計（厚生労働省）：住所地に計上

厚生労働省「令和2年版 自殺対策白書」5ページから改編

→ 千葉県警察本部から提供を受けた自殺統計原票データは、「県内で発見」された住居地が県外の者を含み、「県外で発見」された住居地が千葉県の者を含まない。

なお、厚生労働省自殺対策推進室が公表している「地域における自殺の基礎資料」は、厚生労働省自殺対策推進室が、警察庁から提供を受けた自殺データに基づき、全国・都道府県別・市区町村別自殺者数について再集計したものであり、発見日・発見地で集計したデータのほか、自殺日や住居地で集計したデータがある。本書ではこちらも以下「自殺統計」という。

## 2 年齢調整死亡率・標準化死亡比 (SMR) の算出

人口規模の小さい地域において、人口や自殺者数の変動の影響を受けやすいため、保健所管内別、市町村別の年齢調整死亡率及び標準化死亡比 (SMR) の算出では、人口及び自殺者数ともに平成 27 年から令和元年までの 5 年分の合計数を用いて算出した。SMR 算出の基準人口集団の年齢階級別死亡率は、当該年分 (5 年分) の全国人口値を用いた。さらに、自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い地域間の比較を可能とするため、標準化死亡比の経験的ベイズ推定値 (EBSMR) を算出した。

### \*1 自殺死亡率

人口 10 万人当たりの死亡率

$$\text{自殺死亡率} = \frac{\text{ある期間の死亡数}}{\text{同じ期間の人口}} \times 100,000$$

### \*2 年齢調整死亡率

年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などについて、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる。基準人口には「昭和 60 年モデル人口」を用いている。

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{基準人口のその} \\ \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}}{\text{基準人口の総数}} \times 100,000$$

### \*3 標準化死亡比 (SMR)

年齢構成の差異を基準の死亡率で調整した値 (期待死亡数) に対する現実の死亡数の比のこと。主に小規模人口の地域の比較に用いる。ここでは基準集団を国としている。

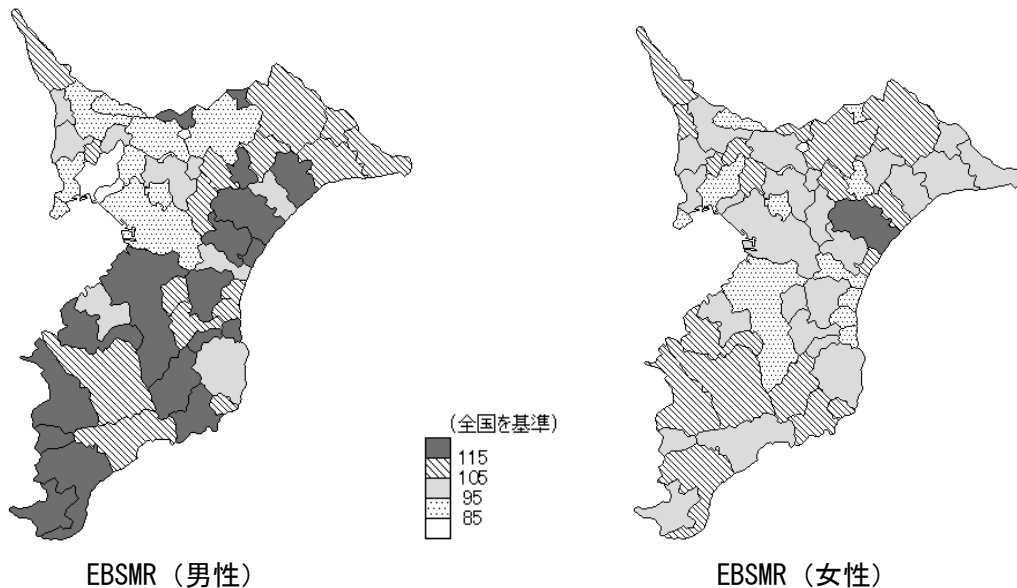
$$\text{標準化死亡比 (SMR)} = \frac{\text{観察集団の死亡数}}{\left\{ \begin{array}{l} \text{基準集団の} \\ \text{各年齢階級の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{観察集団のその} \\ \text{年齢階級の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢階級の総和}} \times 100$$

全国を基準 (SMR = 100) とした場合に、その地域での年齢を調整した上での死亡率がどの程度高い (低い) のかを表現する指標であり、例えば、SMR = 120 ならば、全国 (100) に比べてその地域での死亡率は 1.2 倍であり、SMR = 80 ならば死亡率は 0.8 倍であることを意味する。

### \*4 標準化死亡比の経験的ベイズ推定値 (EBSMR)

標準化死亡比について、自殺者数の少なさに起因する死亡率の変動の影響を抑え、より安定性の高い地域間の比較を可能とした指標。国立保健医療科学院ホームページ ([http://www.niph.go.jp/soshiki/gijutsu/download/ebpoig/index\\_j.html](http://www.niph.go.jp/soshiki/gijutsu/download/ebpoig/index_j.html)) で公開されている「EB estimator for Poisson-Gamma model [Version2.1]」を使用して算出した。

【参考】平成 27 年～令和元年合計の市町村別自殺の標準化死亡比の経験的ベイズ推定値 (EBSMR)



### Ⅲ 自殺の現状

#### 1 自殺者数の推移

人口動態統計によると、令和元年の千葉県の自殺者数は 983 人で、男性 690 人、女性 293 人であった。全死亡者数 62,004 人（男性 33,522 人、女性 28,482 人）のうち自殺者数の割合は 1.6%（男性 2.1%、女性 1.0%）であった。平成 10 年以降 1,300 人前後で推移していた自殺者数は、平成 24 年以降減少し、平成 28 年以降は 1,000 人前後で推移していた（図 1）。（資料編・附表 3、附表 8 参照）

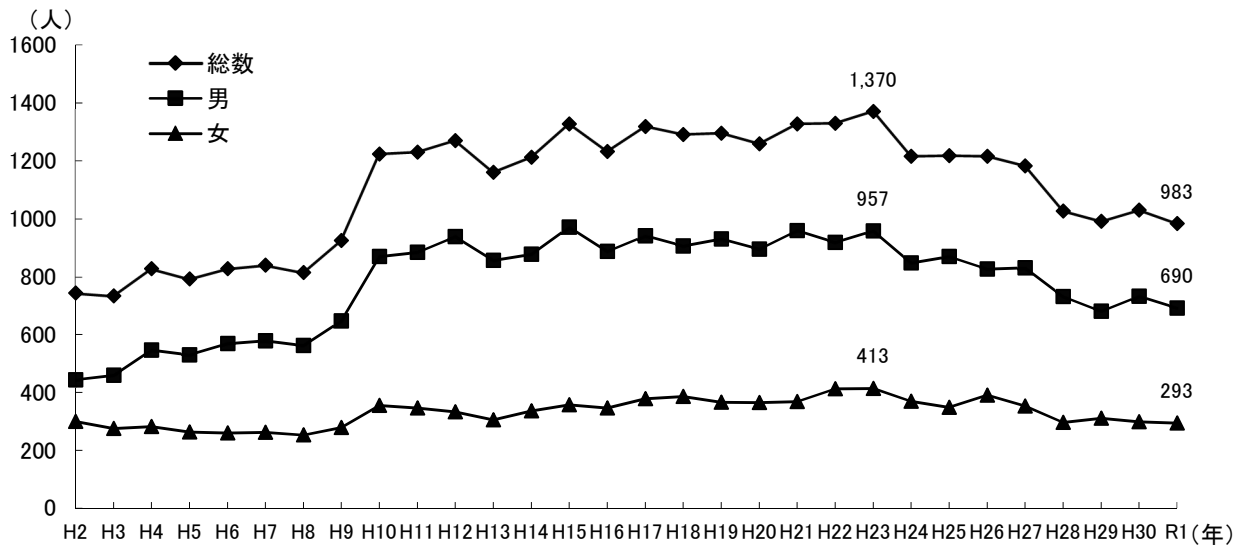


図 1 自殺者数の年次推移（千葉県）

出典 人口動態統計

#### 2 自殺死亡率の推移

千葉県の人口 10 万人当たりの自殺者数（以下「自殺死亡率\*1」という。）の推移を人口動態統計で見ると、平成 21 年まで全国より 2.0 以上低い値で推移していたが、近年は全国と同程度の水準で推移していた（図 2）。（資料編・附表 3 参照）

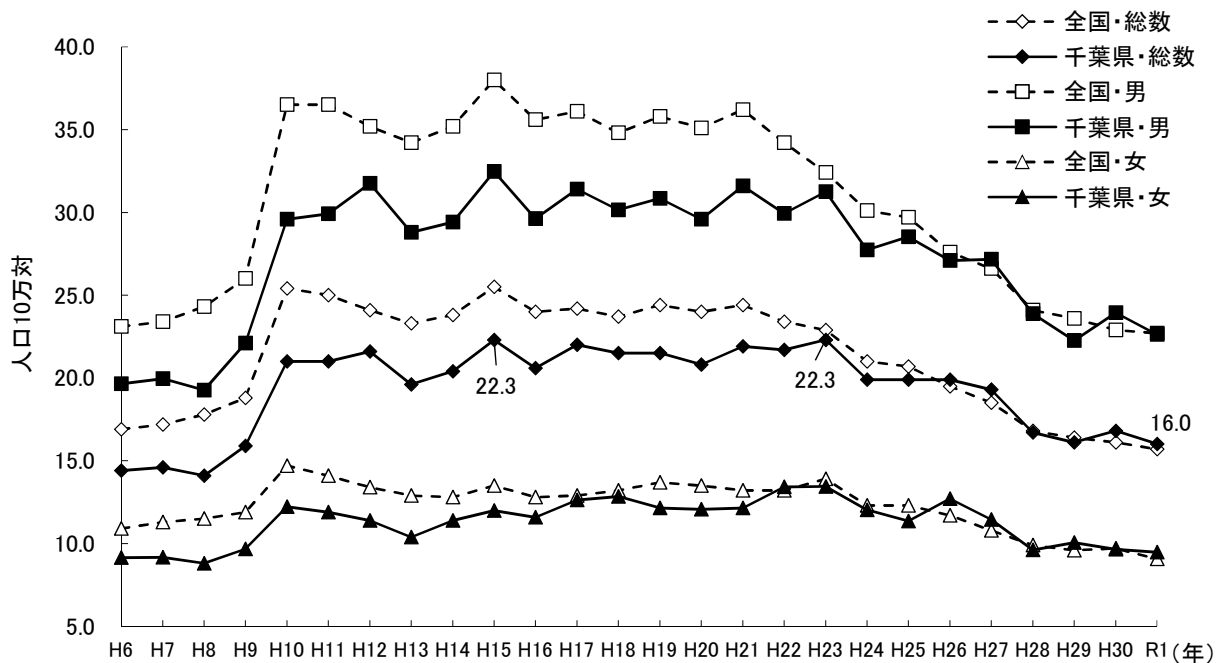


図 2 自殺死亡率の年次推移（全国・千葉県）

出典 人口動態統計、人口推計

### 3 性・年齢階級別の状況

千葉県の上殺者について、平成27年～令和元年の5年間の年齢階級別の自殺死亡率をみると、男女ともに60歳台、70歳台及び80歳以上は減少傾向にあった。一方、10歳台及び20歳台は減少傾向が見られず、特に女性は微増傾向にあった（図3）。（資料編・附表2、附表21参照）

自殺者数の男女比は5年間ほぼ変わらず、男性が約7割を占めていた。令和元年の男性の自殺者数は女性の2.4倍であった。（資料編・附表2、附表3、附表21参照）

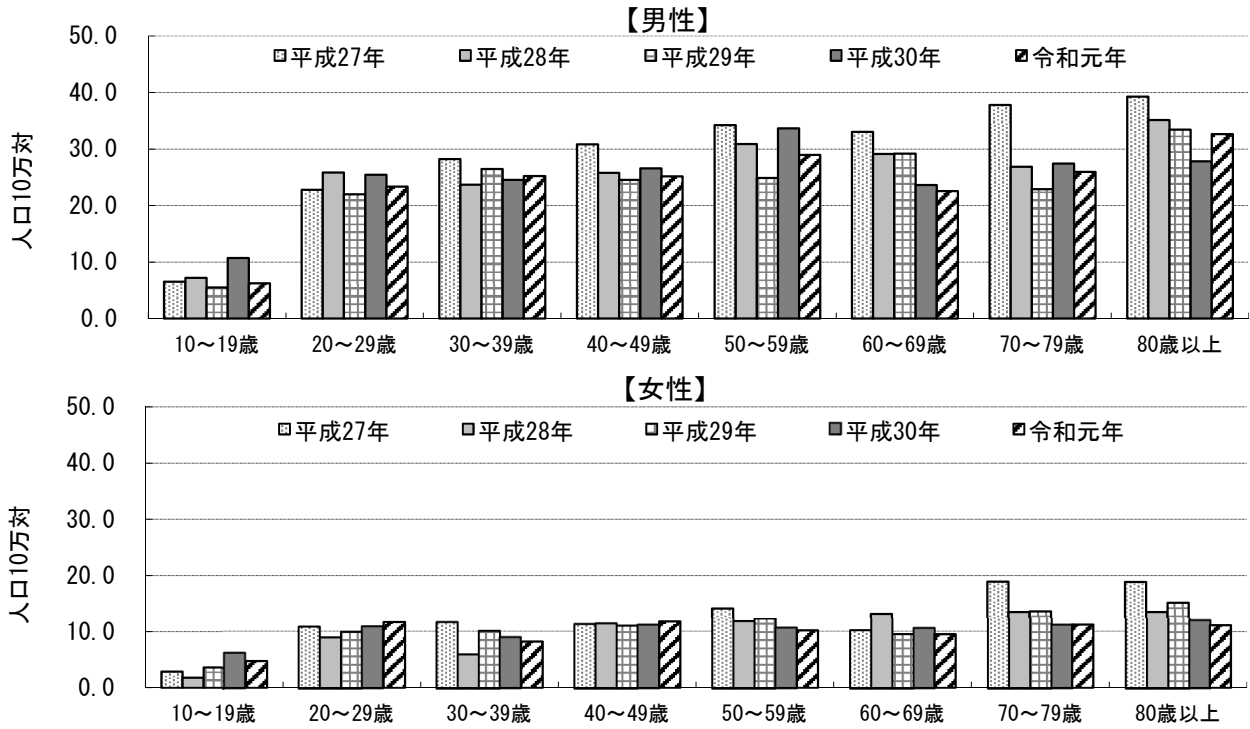


図3 性・年齢階級別自殺死亡率の年次推移（千葉県）

出典 自殺者数…人口動態統計、人口…千葉県年齢別・町丁字別人口調査

人口動態統計による令和元年の死因順位をみると、千葉県の自殺による死亡者数は全年齢では9位であり、前年の8位より好転したが、年齢階級別にみると、前年同様10～39歳における死因順位の1位であった。男女別にみると、男性では10～14歳及び20～44歳において死因順位の1位が自殺であった。また、女性では10～34歳において死因順位の1位が自殺であった（表1）。（資料編・附表4参照）

表1 令和元年及び平成30年 若者・働き盛りの自殺の死因順位（千葉県）

		10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60
		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
		14	19	24	29	34	39	44	49	54	59	64
		歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
総数	令和元年	1	1	1	1	1	1	2	3	4	4	4
	平成30年	1	1	1	1	1	1	2	3	4	4	4
男	令和元年	1	<u>2</u>	1	1	1	1	1	3	3*	<u>4</u>	<u>5</u>
	平成30年	1	1	1	1	1	1	1	3	4	3	4
女	令和元年	1	1	1	1	1	2	2	2*	<u>4</u>	4	4
	平成30年	1	1	1	1	1	2	2	3	3	4	4

注1) 10歳未満は自殺者なしのため省略

注2) \*：前年より順位が悪化、\_：前年より順位が好転

出典 人口動態統計

#### 4 職業別の状況

自殺統計によると、自殺日及び住居地を基準とした令和元年の職業別自殺者数は、総数では、千葉県は無職者が全体の59.1%を占めた。無職者の内訳を見ると、「年金・雇用保険等生活者」及び「その他の無職者」が無職者全体の88.3%を占めた（図4）。

また、自殺統計及び国勢調査から、自殺日及び住居地を基準とした令和元年の職業別自殺死亡率を概算すると、総数では、全国・千葉県ともに「年金・雇用保険等生活者、その他の無職者」が最も高かった。千葉県は、男女ともに「失業者」及び「自営業・家族従事者」は全国を下回っていたが、「年金・雇用保険等生活者、その他の無職者」及び「学生・生徒等」は全国を上回っていた（表2）。（資料編・附表12、附表22参照）

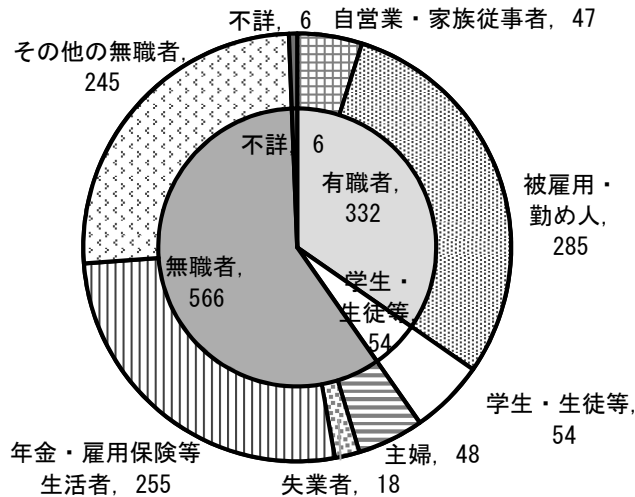


図4 令和元年 職業別自殺者数 (千葉県)

注) 自殺者の職業について、内円では「有職者」、「学生・生徒等」、「無職者」及び「不詳」の4区分に分類した。また、外環では、下記のとおり内円の「有職者」及び「無職者」を更にそれぞれ2区分及び4区分に分け、計8区分に分類した。

内円	外環
「有職者」	「自営業・家族従事者」、「被雇用・勤め人」
「学生・生徒等」	「学生・生徒等」
「無職者」	「主婦」、「失業者」、「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」
「不詳」	「不詳」

出典 自殺統計

表2 令和元年 職業別自殺者数と自殺死亡率 (全国・千葉県)

		自営業・家族従事者	被雇用・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者、その他の無職者	不詳
総数	全国	1,399 19.6	6,149 11.9	884 4.0	1,021 7.4	671 25.8	9,544 45.4	306 4.2
	千葉県	47 16.6	285 11.0	54 5.1	48 6.7	18 14.5	500 51.7	6 1.6
男	全国	1,249 28.7	5,014 17.5	617 5.4	/	586 34.6	6,205 56.1	251 6.6
	千葉県	42 24.0	230 15.5	35 6.3	/	17 20.5	333 61.5	6 2.9
女	全国	150 5.4	1,135 4.9	267 2.5	1,021 7.4	85 9.3	3,339 33.5	55 1.6
	千葉県	5 4.6	55 4.9	19 3.7	48 6.7	1 2.4	167 39.2	0 0.0

注1) 数値：上段は自殺者数、下段は自殺死亡率（人口10万対）

注2) 自殺死亡率は、人口として平成27年国勢調査を用いて計算したため参考値

注3) 千葉県の自殺者は、県外で発見された「住居地が県内」の者を含むが、県内で発見された「住居地が県外」の者を含まない。

出典 自殺者数…自殺統計、人口…国勢調査

## 5 原因・動機別の状況

発見日及び発見地を基準とした令和元年の自殺統計によると、発見地が県内であった自殺者 977 人のうち、原因・動機を特定できた者は 591 人で全体の 60.5%であった。また、平成 27 年～令和元年合計では、自殺者 5,196 人のうち、原因・動機を特定できた者は 3,470 人で全体の 66.8 %であった。

原因・動機特定者数に占める各原因・動機の件数の割合をみると、全国同様、健康問題の割合が最も高く、次に経済・生活問題、家庭問題が続き、経済・生活問題の割合は全国を上回っていた。平成 27 年と令和元年の割合を比較すると、健康問題の割合で 5.4%減少し、経済・生活問題の割合で 1.7%減少した（図 5）。（資料編・附表 14 参照）

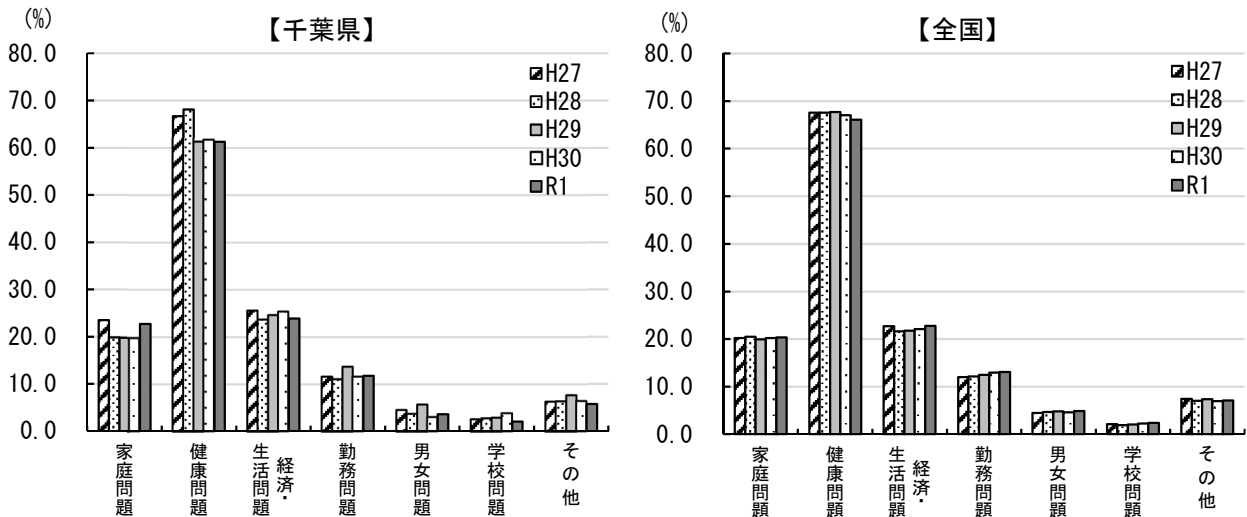


図 5 自殺の原因・動機特定者に占める各原因・動機の件数の割合（全国・千葉県）

注 1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注 2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき 3 つまで計上可能としている。

注 3) 千葉県の自殺者：「県内で発見」された住居地が県外の者を含み、「県外で発見」された住居地が県内の者を含まない。

出典 自殺統計

## 6 原因・動機の詳細の状況

### (1) 男女別の状況

自殺統計原票データから、平成 27 年～令和元年に県内で発見され、かつ原因・動機を特定できた自殺者 3,470 人のうち、男性は 2,340 人、女性は 1,130 人であった。各原因・動機に該当する実人数の割合をみると、経済・生活問題で男性が女性の 3.1 倍、勤務問題で男性が女性の 3.0 倍、また、健康問題で女性が男性の 1.4 倍であった（図 6）。

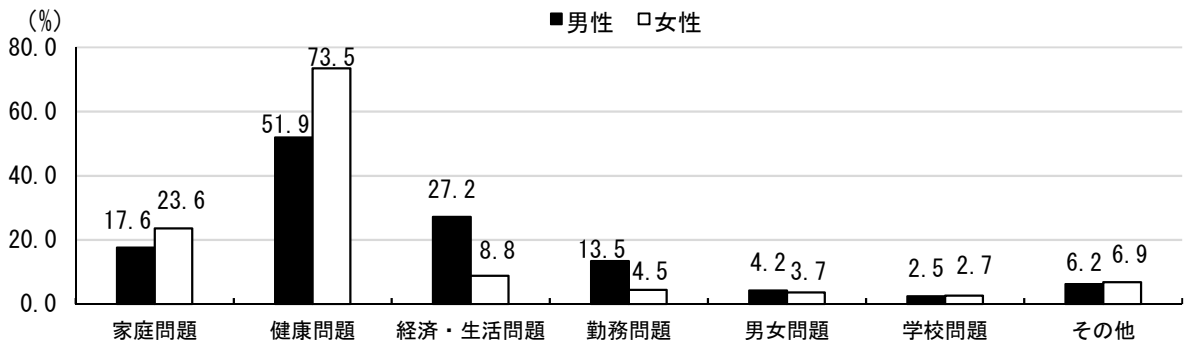


図 6 原因・動機特定者に占める各原因・動機の該当者数の割合：平成 27 年～令和元年合計（千葉県）

注 1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注 2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき 3 つまで計上可能としている。

出典 自殺統計原票データ

## (2) 原因・動機の内容

自殺統計原票データから、平成 25 年～令和元年に県内で発見され、かつ原因・動機を特定できた 5,109 人（男性 3,441 人、女性 1,668 人）の延べ原因・動機件数に占める各原因・動機件数の割合は、男性は健康問題 41.0%、経済・生活問題 23.5%、家庭問題 14.7%の順であり、女性は健康問題 60.4%、家庭問題 19.4%、経済・生活問題 7.0%の順であった。（資料編・附表 15 参照）

平成 25 年～令和元年の原因・動機の小分類（10 ページ【参考】参照）別の計上件数を、原因・動機が特定された自殺者数で割って算出した割合をみると、男性では「病気の悩み（身体の病気）」（以下「身体の病気」という。）21.5%、「病気の悩み・影響（うつ病）」（以下「うつ病」という。）20.2%、「生活苦」11.4%と続いた。女性では、「うつ病」37.8%、「身体の病気」21.2%、「病気の悩み・影響（統合失調症）」（以下「統合失調症」という。）9.9%と続いた。上位 10 位のうち、男女ともに「身体の病気」、「うつ病」、「統合失調症」、「病気の悩み・影響（その他の精神疾患）」、「夫婦関係の不和」、「家族の将来悲観」、「生活苦」が共通していた。上位 10 位の項目数では、男女ともに健康問題が 4 つであったほか、男性は経済・生活問題が 3 つ、女性は家庭問題が 5 つであった（図 7）。また、年齢階級別にみると、男女とも 19 歳以下は「その他進路に関する悩み」が 1 位、20 歳台～50 歳台は「うつ病」が 1 位、70 歳台及び 80 歳以上は「身体の病気」が 1 位であった（表 3）。

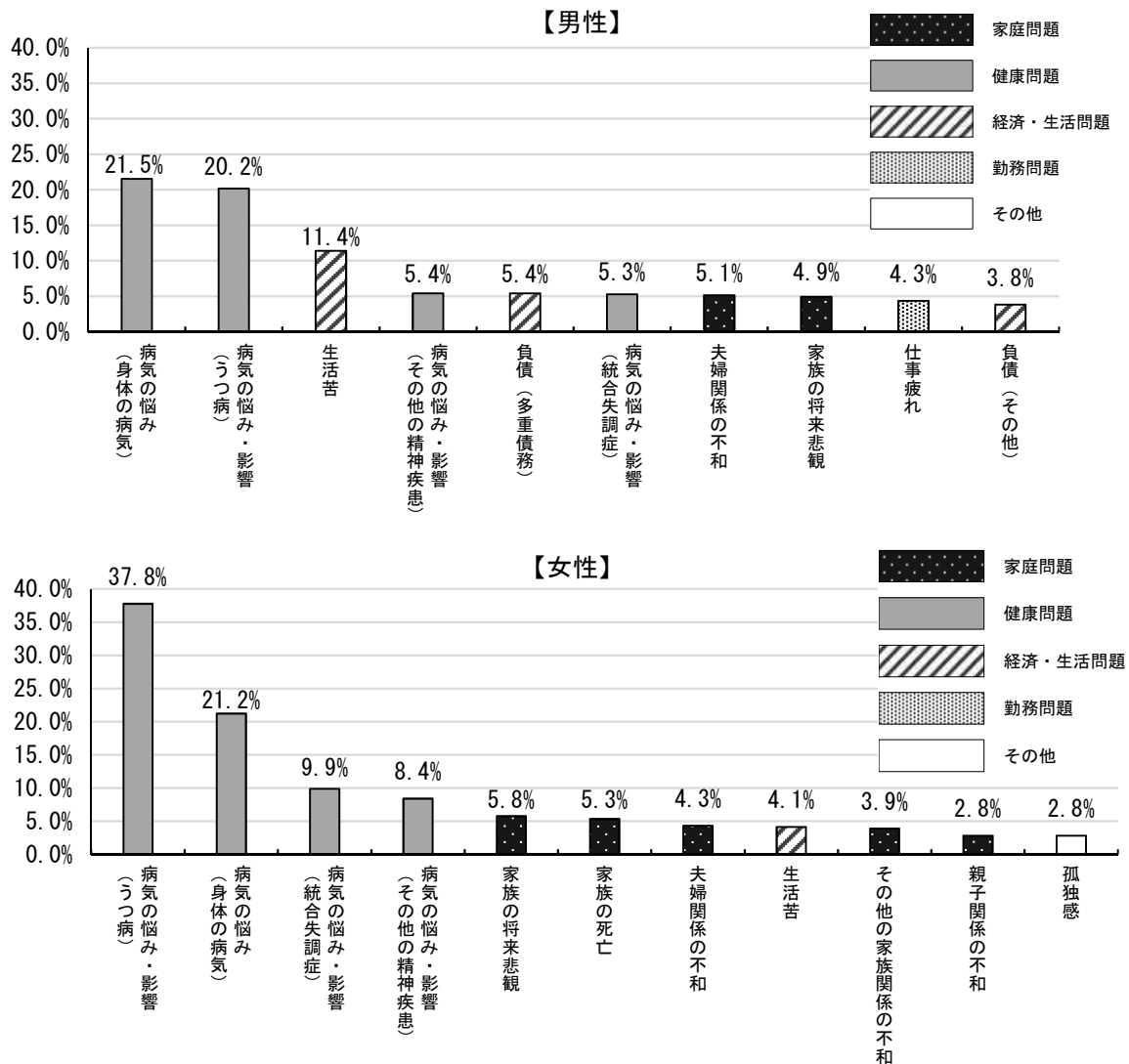


図 7 原因・動機（小分類）の計上割合（上位 10 位）：平成 25 年～令和元年合計（千葉県）

注 1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注 2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき 3 つまで計上可能としている。

出典 自殺統計原票データ



表3 年齢階級別の原因・動機（小分類）の計上割合（上位5位）：平成25年～令和元年合計（千葉県）

年齢階級	男		女	
	原因・動機	割合（％）	原因・動機	割合（％）
19歳以下	その他進路に関する悩み	12.5	その他進路に関する悩み	16.9
	学業不振	10.4	病気の悩み・影響（うつ病）	13.6
	その他学友との不和	9.4	親子関係の不和	11.9
	その他（学校問題）	9.4	その他学友との不和	10.2
	入試に関する悩み	7.3	その他の家族関係の不和	8.5
			その他（学校問題）	8.5
20～29歳	病気の悩み・影響（うつ病）	14.7	病気の悩み・影響（うつ病）	28.4
	生活苦	8.0	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	13.6
	失恋	8.0	病気の悩み・影響（統合失調症）	9.3
	職場の人間関係	7.7	その他交際をめぐる悩み	8.0
	仕事疲れ	7.7	その他の家族関係の不和	5.6
			職場の人間関係	5.6
30～39歳	病気の悩み・影響（うつ病）	24.5	病気の悩み・影響（うつ病）	42.4
	病気の悩み・影響（統合失調症）	10.3	病気の悩み・影響（統合失調症）	14.3
	生活苦	9.3	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	12.4
	負債（多重債務）	8.7	夫婦関係の不和	7.1
	夫婦関係の不和	8.3	子育ての悩み	7.1
40～49歳	病気の悩み・影響（うつ病）	24.9	病気の悩み・影響（うつ病）	47.5
	生活苦	13.0	病気の悩み・影響（統合失調症）	17.3
	病気の悩み（身体の病気）	9.3	病気の悩み（身体の病気）	8.8
	夫婦関係の不和	8.2	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	8.1
	病気の悩み・影響（統合失調症）	7.4	夫婦関係の不和	6.7
50～59歳	病気の悩み・影響（うつ病）	25.3	病気の悩み・影響（うつ病）	44.2
	生活苦	15.6	病気の悩み・影響（統合失調症）	13.1
	病気の悩み（身体の病気）	15.2	病気の悩み（身体の病気）	12.1
	負債（多重債務）	9.3	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	9.7
	事業不振	6.3	生活苦	9.7
60～69歳	病気の悩み（身体の病気）	31.6	病気の悩み・影響（うつ病）	46.5
	病気の悩み・影響（うつ病）	18.9	病気の悩み（身体の病気）	26.7
	生活苦	17.4	病気の悩み・影響（統合失調症）	10.4
	負債（多重債務）	6.4	家族の将来悲観	7.3
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	6.0	家族の死亡	6.9
70～79歳	病気の悩み（身体の病気）	51.1	病気の悩み（身体の病気）	40.7
	病気の悩み・影響（うつ病）	17.0	病気の悩み・影響（うつ病）	35.2
	生活苦	9.4	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	8.9
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	4.6	家族の死亡	7.4
	家族の将来悲観	4.4	家族の将来悲観	5.2
			生活苦	5.2
80歳以上	病気の悩み（身体の病気）	60.7	病気の悩み（身体の病気）	50.3
	病気の悩み・影響（うつ病）	10.3	病気の悩み・影響（うつ病）	16.9
	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	7.3	家族の死亡	9.5
	家族の死亡	5.6	孤独感	9.0
	介護・看病疲れ	4.3	その他の家族関係の不和	6.3
			家族の将来悲観	6.3

注1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき3つまで計上可能としている。

出典 自殺統計原票データ

## 7 市町村別の状況

### (1) 原因・動機別の状況

自殺統計原票データから、平成 27 年～令和元年に県内で発見された自殺者 5,196 人のうち、生前の住居地が県内 54 市町村であった者は 4,947 人であった（表 4）。

### (2) 自殺の場所別の状況

自殺統計原票データから、平成 27 年～令和元年に県内で発見された自殺者 5,196 人の自殺の場所は、自宅が 60.6%と最も多く、次いで高層ビル 6.7%、乗物 4.7%であった（図 8）。

生前の住居地が発見市町村と異なる者（以下「住居地外自殺者」という。ただし、生前の住居地が不詳の者を除く。）は 642 人であった。住居地外自殺者の自殺の場所は、乗物が 17.9%と最も多く、次いで海（湖）・河川 11.2%、鉄道線路 9.3%であった（表 5）。

なお、住居地外自殺者 642 人のうち、生前の住居地が県外であった者は 18 都府県 186 人で、東京都、茨城県、神奈川県、埼玉県の順に多く、この 4 都県で 163 人（87.6%）に及んだ。

#### 【参考】原因・動機小分類一覧

家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
親子関係の不和	病気の悩み (身体の病気)	倒産	仕事の失敗	結婚を めぐる悩み	入試に 関する悩み	犯罪発覚等
夫婦関係の不和	病気の悩み・ 影響 (うつ病)	事業不振	職場の人間関係	失恋	その他進路に 関する悩み	犯罪被害
その他 家族関係の不和	病気の悩み・ 影響 (統合失調症)	失業	職場環境の変化	不倫の悩み	学業不振	後追い
家族の死亡	病気の悩み・ 影響 (アルコール 依存症)	就職失敗	仕事疲れ	その他交際を めぐる悩み	教師との 人間関係	孤独感
家族の将来悲観	病気の悩み・ 影響 (薬物乱用)	生活苦	その他	その他	いじめ	近隣関係
家族からの しつけ・叱責	病気の悩み・ 影響 (その他の 精神疾患)	負債 (多重債務)			その他 学友との不和	その他
子育ての悩み	身体障害の 悩み	負債 (連帯保証 債務)			その他	
被虐待	その他	負債 (その他)				
介護・看病疲れ		借金の 取り立て苦				
その他		自殺による 保険金支給				
		その他				

厚生労働省「令和 2 年版 自殺対策白書」111 ページから改編

表4 住居地（市町村）別における自殺の原因・動機特定者数と各原因・動機の該当者数：平成27年～令和元年合計

市町村名	自殺者総数	原因・動機特定者数	各原因・動機の該当者数						
			家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
千葉市	753	546	111	338	112	55	20	17	35
銚子市	55	33	5	19	5	-	-	-	-
市川市	363	280	47	157	57	36	15	6	22
船橋市	415	279	59	180	52	34	9	9	15
館山市	51	43	14	13	13	6	-	-	6
木更津市	113	47	17	23	12	6	-	-	-
松戸市	364	238	39	135	50	26	6	8	21
野田市	129	86	14	49	13	6	8	-	9
茂原市	90	50	7	26	16	-	-	-	-
成田市	99	60	13	39	12	10	-	-	7
佐倉市	139	78	22	40	19	6	-	-	-
東金市	63	39	7	25	10	-	-	-	-
旭市	58	47	7	19	13	7	-	-	-
習志野市	102	80	18	42	12	9	-	-	6
柏市	298	226	43	151	46	27	10	6	9
勝浦市	18	8	-	-	-	-	-	-	-
市原市	287	133	38	75	22	8	-	-	-
流山市	130	90	19	58	15	10	-	-	5
八千代市	161	132	14	87	29	10	6	7	9
我孫子市	91	58	5	39	10	-	6	-	-
鴨川市	30	29	10	17	7	-	-	-	-
鎌ヶ谷市	97	52	8	35	10	5	-	-	-
君津市	89	61	8	41	9	10	-	-	-
富津市	48	36	-	26	6	-	-	-	-
浦安市	99	65	12	41	7	-	6	-	-
四街道市	61	40	7	22	10	-	-	-	5
袖ヶ浦市	45	24	-	12	7	5	-	-	-
八街市	63	43	11	22	13	-	-	-	-
印西市	52	42	9	27	9	6	-	-	-
白井市	46	37	8	22	8	7	-	-	-
富里市	51	28	-	14	12	-	-	-	-
南房総市	58	42	10	25	11	-	-	-	-
匝瑳市	44	16	-	8	5	-	-	-	-
香取市	64	46	14	30	7	-	-	-	5
山武市	67	44	9	24	12	-	-	-	-
いすみ市	30	24	-	18	7	-	-	-	-
大網白里市	36	24	-	15	-	5	-	-	-
酒々井町	13	8	-	-	-	-	-	-	-
栄町	22	13	-	8	5	-	-	-	-
神崎町	5	-	-	-	-	-	-	-	-
多古町	10	10	-	8	-	-	-	-	-
東庄町	11	10	-	7	-	-	-	-	-
九十九里町	21	13	-	5	6	-	-	-	-
芝山町	6	-	-	-	-	-	-	-	-
横芝光町	17	10	-	7	-	-	-	-	-
一宮町	10	6	-	-	-	-	-	-	-
睦沢町	8	6	-	-	-	-	-	-	-
長生村	13	9	-	-	-	-	-	-	-
白子町	7	5	-	-	-	-	-	-	-
長柄町	5	5	-	-	-	-	-	-	-
長南町	5	-	-	-	-	-	-	-	-
大多喜町	22	12	6	8	-	-	-	-	-
御宿町	6	5	-	5	-	-	-	-	-
鋸南町	7	6	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	4,947	3,331	652	1,998	690	344	129	85	212

注1) 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注2) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者数と各原因・動機の該当者数の合計は一致しない。

注3) 5人未満は「-」と表記している。

出典 自殺統計原票データ

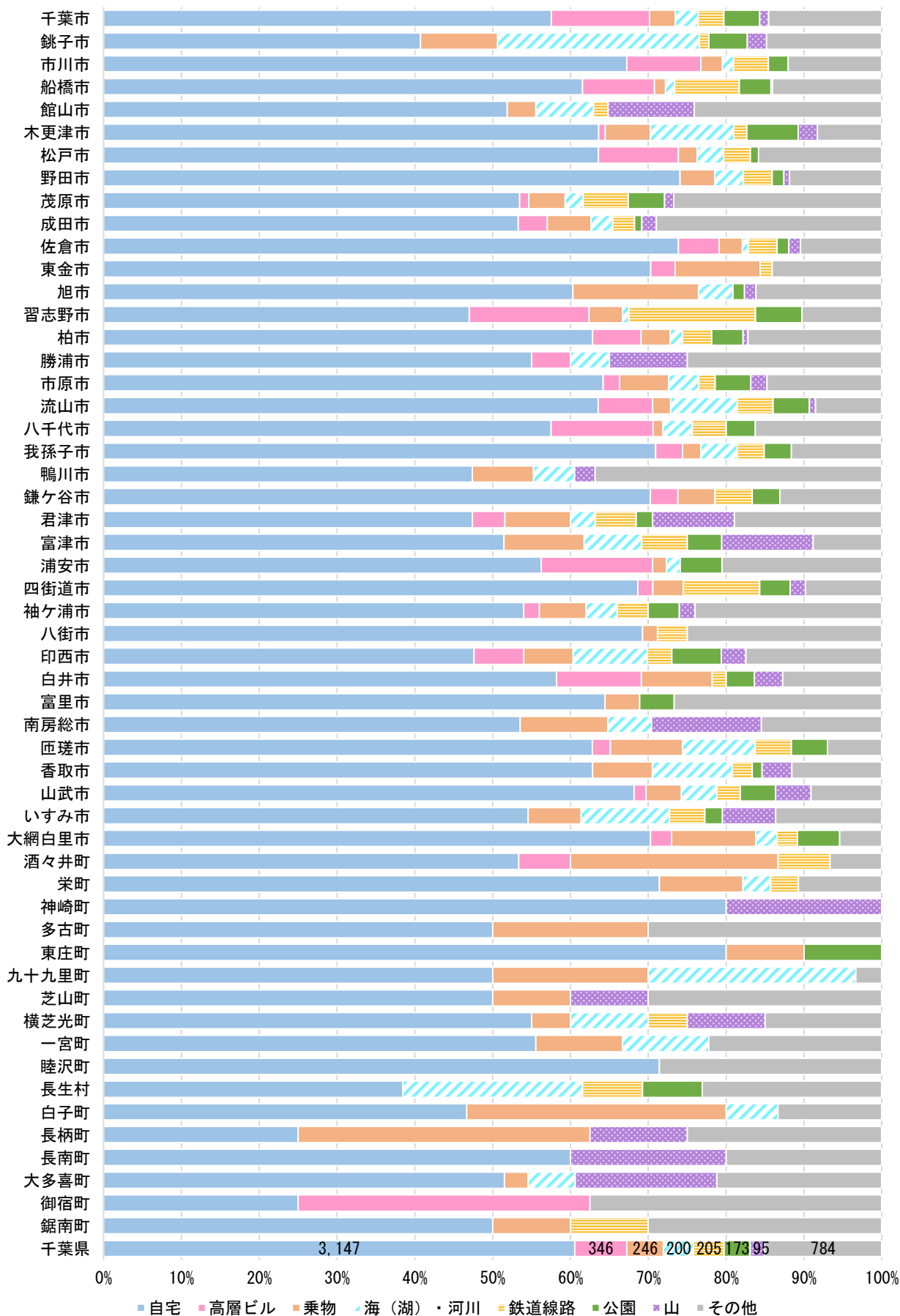


図8 発見地(市町村)別における自殺の場所別の構成：平成27年～令和元年合計

出典 自殺統計原票データ

表5 発見地（市町村）別における住居地外自殺者の自殺の場所別人数：平成27年～令和元年合計

市町村名	自殺者 総数	住居地外 自殺者数	住居地外 自殺者の 割合 (%)	住居地外自殺者の自殺の場所別人数						
				乗物	海(湖)・ 河川	鉄道線路	高層ビル	公園	山	その他
千葉市	784	73	9.3	7	-	-	12	6	-	37
銚子市	81	29	35.8	-	11	-	-	-	-	11
市川市	357	21	5.9	-	-	-	-	-	-	11
船橋市	421	43	10.2	-	-	18	-	-	-	17
館山市	54	6	11.1	-	-	-	-	-	-	-
木更津市	121	17	14.0	-	-	-	-	-	-	5
松戸市	379	29	7.7	-	6	-	7	-	-	7
野田市	135	9	6.7	-	-	-	-	-	-	-
茂原市	86	10	11.6	-	-	-	-	-	-	-
成田市	107	16	15.0	-	-	-	-	-	-	13
佐倉市	134	11	8.2	-	-	-	-	-	-	5
東金市	64	7	10.9	-	-	-	-	-	-	-
旭市	68	13	19.1	8	-	-	-	-	-	-
習志野市	117	27	23.1	-	-	13	6	-	-	-
柏市	320	33	10.3	-	-	-	-	-	-	22
勝浦市	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市原市	285	17	6.0	-	-	-	-	-	-	8
流山市	129	10	7.8	-	5	-	-	-	-	-
八千代市	160	21	13.1	-	-	-	-	-	-	10
我孫子市	86	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鴨川市	38	8	21.1	-	-	-	-	-	-	5
鎌ヶ谷市	84	-	-	-	-	-	-	-	-	-
君津市	95	16	16.8	5	-	-	-	-	-	6
富津市	68	18	26.5	-	-	-	-	-	5	-
浦安市	112	15	13.4	-	-	-	-	-	-	8
四街道市	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-
袖ヶ浦市	50	10	20.0	-	-	-	-	-	-	6
八街市	52	-	-	-	-	-	-	-	-	-
印西市	63	17	27.0	-	-	-	-	-	-	8
白井市	55	13	23.6	-	-	-	-	-	-	5
富里市	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南房総市	71	16	22.5	6	-	-	-	-	-	-
匝瑳市	43	5	11.6	-	-	-	-	-	-	-
香取市	78	18	23.1	-	-	-	-	-	-	8
山武市	66	8	12.1	-	-	-	-	-	-	-
いすみ市	44	15	34.1	-	-	-	-	-	-	7
大網白里市	37	6	16.2	-	-	-	-	-	-	-
酒々井町	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栄町	28	7	25.0	-	-	-	-	-	-	-
神崎町	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
多古町	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東庄町	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
九十九里町	30	11	36.7	5	6	-	-	-	-	-
芝山町	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
横芝光町	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一宮町	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
睦沢町	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長生村	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-
白子町	15	8	53.3	5	-	-	-	-	-	-
長柄町	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長南町	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大多喜町	33	13	39.4	-	-	-	-	-	-	8
御宿町	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鋸南町	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	5,196	642	12.4	115	72	60	48	37	43	267

注1) 住居地外自殺者とは、生前の住居地が発見市町村と異なる者をいう。ただし、生前の住居地が不詳の者を除く。

注2) 5人未満は「-」と表記している。また、当該欄の人数が5人未満でない場合であっても、当該欄の数値を表記することにより他の欄の5人未満の数値が明らかになる場合、「-」と表記している。

出典 自殺統計原票データ

## 8 時間帯別自殺者数

自殺統計原票データから、平成27年～令和元年に県内で発見された自殺者5,196人のうち、自殺の時間帯が不詳の者を除き、自殺の時間帯を男女別にみると、男性は、4時台～5時台が最も多く、次に6時台～7時台、10時台～11時台と続いた。一方、女性は、10時台～11時台が最も多く、次に14時台～15時台、4時台～5時台と続いた（図9）。

年齢不詳の者を除き、自殺の時間帯を年齢階級別にみると、70歳台を除く全ての年齢階級で4時台～5時台の割合が最も高かった。19歳以下では、16時台～17時台にもピークが見られた（表6）。

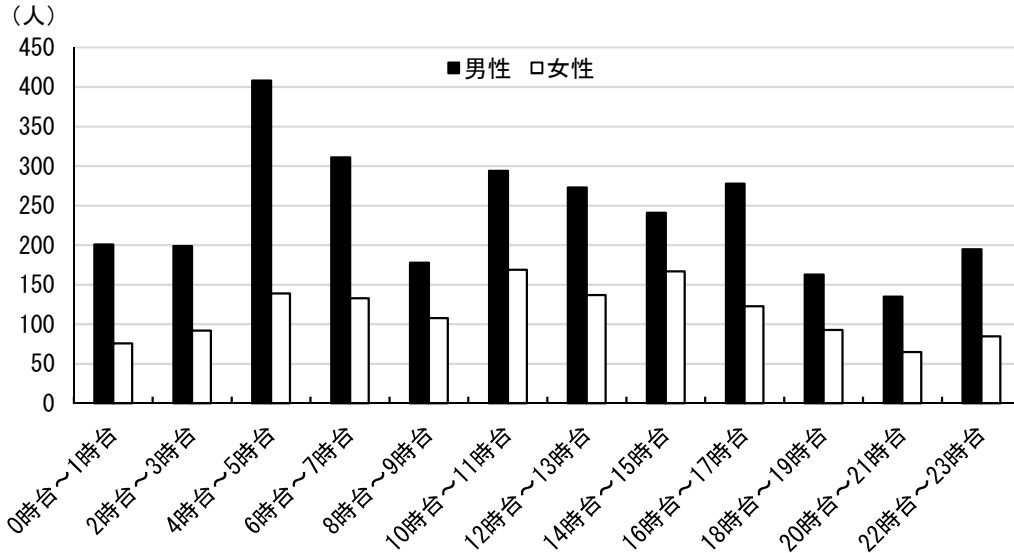


図9 平成27年～令和元年合計の時間帯別自殺者数の状況

出典 自殺統計原票データ

表6 平成27年～令和元年合計の時間帯別・年齢階級別自殺者数の状況

	0時台 ～1時台	2時台 ～3時台	4時台 ～5時台	6時台 ～7時台	8時台 ～9時台	10時台 ～11時台	12時台 ～13時台	14時台 ～15時台	16時台 ～17時台	18時台 ～19時台	20時台 ～21時台	22時台 ～23時台	計
19歳以下	14 9.1%	15 9.7%	21 13.6%	11 7.1%	6 3.9%	11 7.1%	9 5.8%	11 7.1%	20 13.0%	13 8.4%	13 8.4%	10 6.5%	154 100.0%
20～29歳	35 8.0%	35 8.0%	54 12.4%	40 9.2%	31 7.1%	32 7.4%	29 6.7%	45 10.3%	36 8.3%	34 7.8%	31 7.1%	33 7.6%	435 100.0%
30～39歳	46 8.4%	30 5.5%	68 12.4%	57 10.4%	39 7.1%	64 11.6%	47 8.5%	39 7.1%	46 8.4%	33 6.0%	28 5.1%	53 9.6%	550 100.0%
40～49歳	45 5.8%	49 6.3%	106 13.7%	71 9.2%	48 6.2%	98 12.7%	78 10.1%	61 7.9%	77 10.0%	48 6.2%	33 4.3%	59 7.6%	773 100.0%
50～59歳	33 5.2%	49 7.7%	77 12.1%	69 10.8%	36 5.6%	65 10.2%	60 9.4%	71 11.1%	67 10.5%	43 6.7%	37 5.8%	31 4.9%	638 100.0%
60～69歳	47 7.4%	38 6.0%	83 13.0%	65 10.2%	44 6.9%	76 11.9%	72 11.3%	64 10.0%	62 9.7%	26 4.1%	32 5.0%	29 4.5%	638 100.0%
70～79歳	34 5.3%	53 8.3%	69 10.8%	67 10.5%	48 7.5%	71 11.2%	76 11.9%	77 12.1%	57 9.0%	31 4.9%	13 2.0%	40 6.3%	636 100.0%
80歳以上	20 4.8%	19 4.6%	63 15.2%	61 14.7%	33 8.0%	46 11.1%	39 9.4%	39 9.4%	36 8.7%	23 5.6%	12 2.9%	23 5.6%	414 100.0%
計	274 6.5%	288 6.8%	541 12.8%	441 10.4%	285 6.7%	463 10.9%	410 9.7%	407 9.6%	401 9.5%	251 5.9%	199 4.7%	278 6.6%	4,238 100.0%

注) 数値：上段は自殺者数、下段は構成割合

出典 自殺統計原票データ

## 9 曜日別自殺者数

自殺統計原票データから、平成27年～令和元年に県内で発見された自殺者5,196人について、自殺の曜日別の人数を男女別にみると、男性では、月曜日が最も多く、次に火曜日、木曜日の順であった。また、自殺者が最も少なかったのは日曜日で、次に少ないのは土曜日であった。月曜日の自殺者数は日曜日の1.5倍であった。

一方、女性は、水曜日が最も多く、次に木曜日、日曜日が続いた。また、自殺者が最も少ないのは土曜日で、次に少ないのが金曜日であった。水曜日の自殺者数は土曜日の1.3倍であった（図10）。

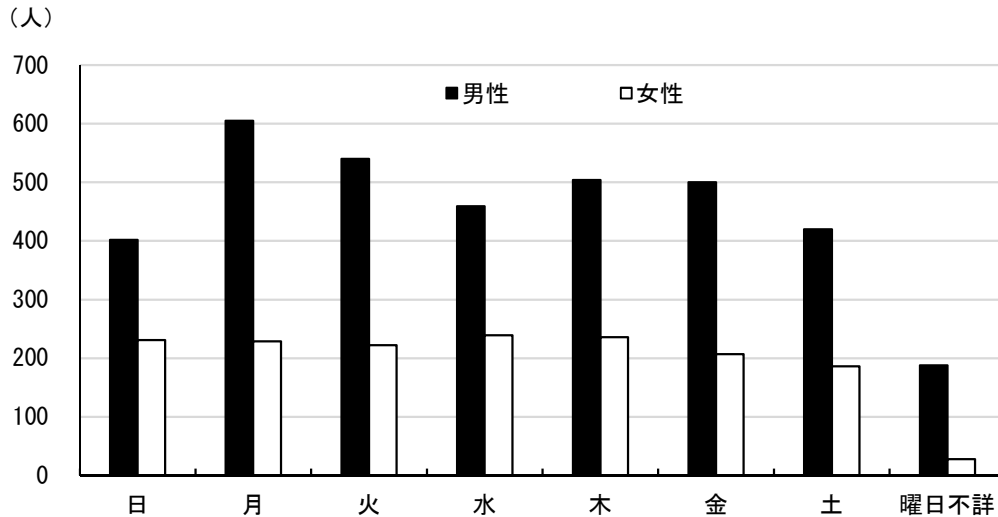


図10 平成27年～令和元年合計の曜日別自殺者数の状況

出典 自殺統計原票データ

## 10 月別自殺者数

人口動態統計による月別の自殺者数（平成27年～令和元年合計）について、月の日数差の影響を除くため1か月を30日換算した値の動向をみると、千葉県は、全国と同様に3月から5月にかけて及び9月にピークが見られた（図11）。（資料編・附表7参照）

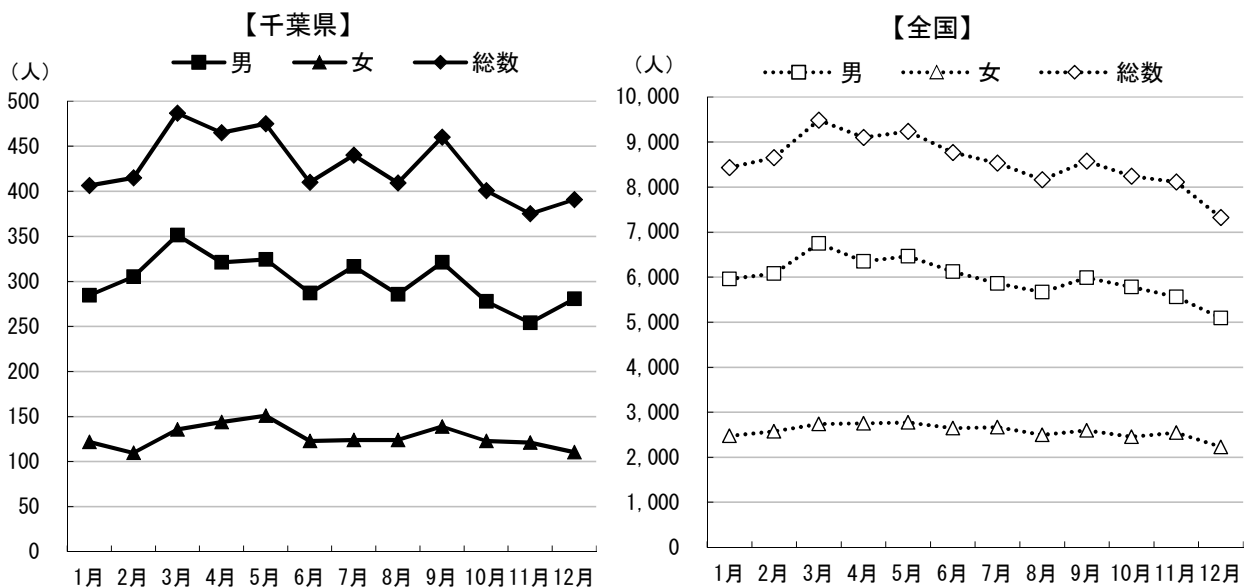


図11 平成27年～令和元年合計の性別・月別自殺者数（千葉県・全国）

注) 月の日数差の影響を除くため、1か月を30日と計算して調整した。

出典 人口動態統計

## 1.1 自殺との関連が考えられる事象の状況

### (1) 完全失業率

労働力調査による平成20年～令和元年の千葉県の完全失業率（モデル推計値）と生産年齢（15～64歳）人口の自殺死亡率の動向をみると、平成24年頃まで完全失業率と自殺死亡率の動向はほぼ同様であったが、平成25年以降は完全失業率の低下と比較して自殺死亡率の低下は鈍化していた（図12）。（資料編・附表18参照）

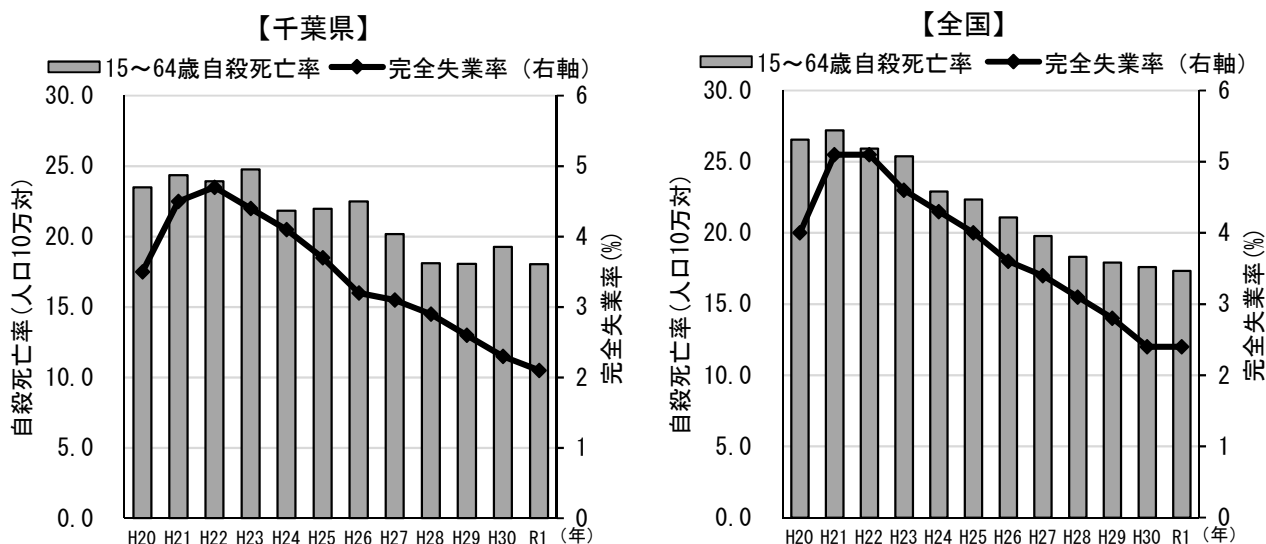


図12 15～64歳自殺死亡率と完全失業率の年次推移（千葉県・全国）

出典 人口動態統計、労働力調査、人口推計

### (2) 生活保護率

平成21年度～平成30年度の10年間の千葉県の生活保護率と自殺死亡率の動向をみると、生活保護率は増加している一方、自殺死亡率は低下していた（図13）。

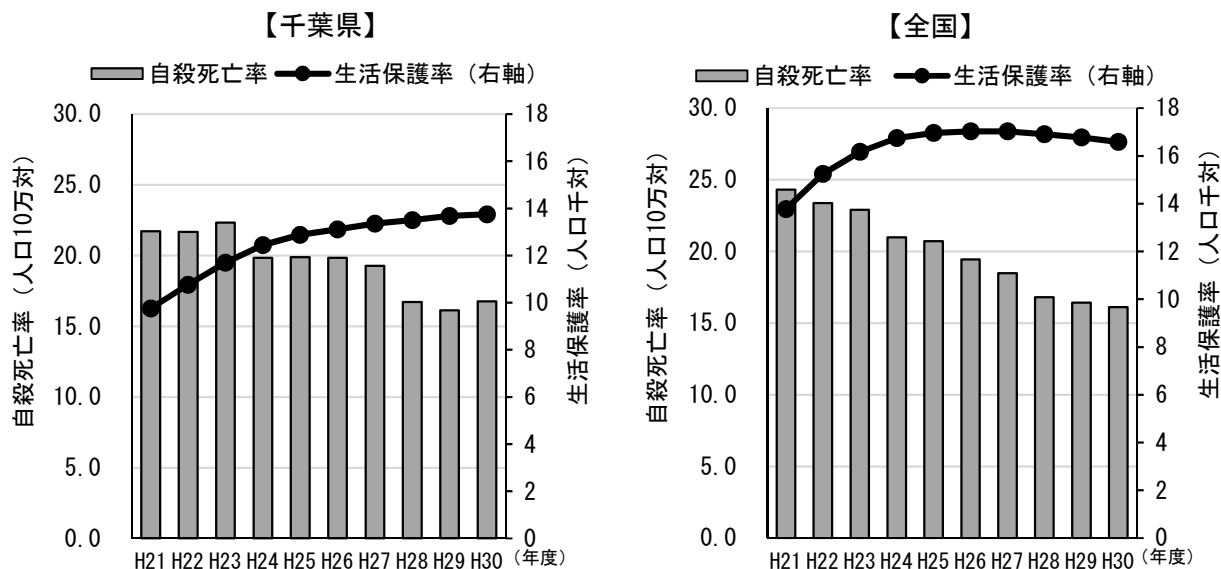


図13 自殺死亡率と生活保護率の年次推移（千葉県・全国）

注) 生活保護率 = 被保護実人員（1か月平均） / 各年10月1日現在推計人口

出典 自殺者数…人口動態統計  
被保護実人員（1か月平均）…被保護者調査  
人口…人口推計



### (3) 交通事故死亡者数

平成 22 年～令和元年の 10 年間の人口動態統計によると、千葉県における自殺者数は、交通事故死亡者数の約 4～5 倍で推移していた（図 14）。

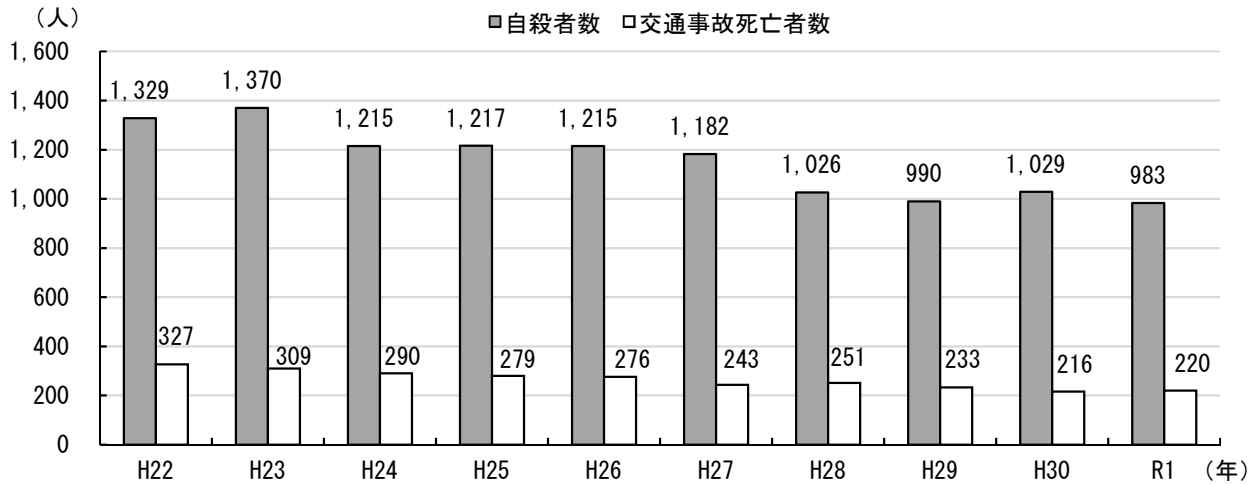


図 14 自殺者数と交通事故死亡者数の推移（千葉県）

出典 人口動態統計

## 1.2 児童・生徒における自殺の状況

### (1) 18 歳以下自殺者の内訳

自殺統計原票データによると、平成 27 年～令和元年に県内で発見された自殺者のうち、「大学生」及び「専修学校生等」を除く<sup>※1</sup> 18 歳以下の自殺者は、「小学生」6 人、「中学生」33 人、「高校生」62 人であった。「大学生」及び「専修学校生等」を除く<sup>※1</sup> 18 歳以下の自殺者のうち、「児童・生徒以外<sup>※2</sup>」は全員 16 歳以上で計 14 人であった。

※1 学校に行っていない者も含め、小学生・中学生・高校生に該当する年齢層の自殺者をみるため、18 歳の大学生・専修学校生の人数を除いた。

※2 児童・生徒以外：自殺統計原票上の職業分類において、「小学生」「中学生」「高校生」以外の自殺者

### (2) 自殺死亡率

千葉県における高校生の自殺死亡率は、平成 28 年及び平成 29 年は全国と同程度であったが、平成 30 年は全国の 1.6 倍、令和元年は全国の 1.4 倍となった（図 15）。

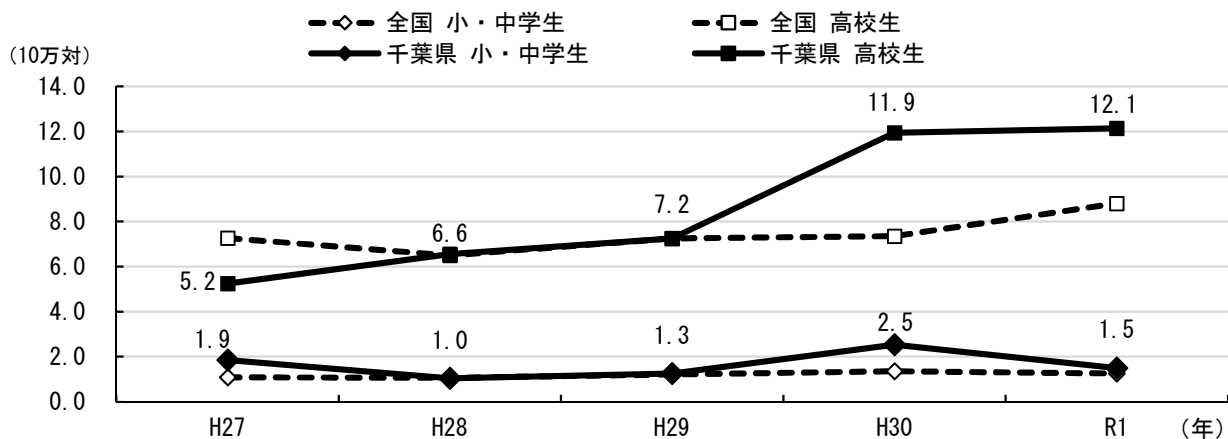


図 15 児童・生徒の自殺死亡率の推移（千葉県・全国）

出典 自殺者数…千葉県：自殺統計原票データ 全国：自殺統計在籍者数…学校基本調査

### (3) いじめの認知件数

平成 27 年度～令和元年度の児童・生徒 1,000 人当たりのいじめの認知件数は、千葉県及び全国ともに増加傾向にあった。千葉県では、小学生及び中学生は全国より高い値で推移し、また、平成 30 年以降は高校生も全国より高い値で推移していた（図 16）。令和元年度の千葉県のいじめの認知件数は、小学生 43,169 件、中学生 8,194 件、高校生 1,113 件であった。

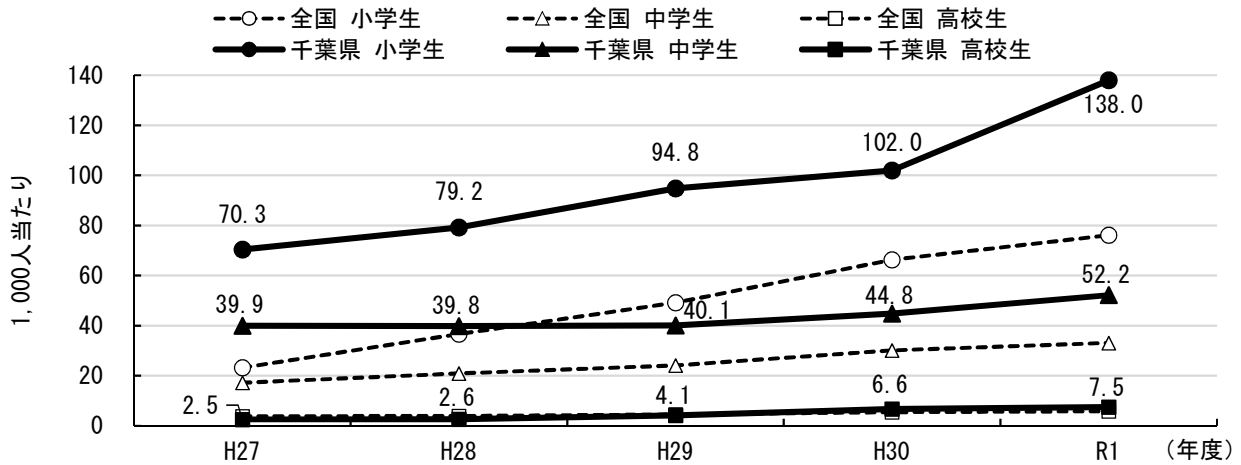


図 16 いじめの認知件数の推移（千葉県・全国）

出典 いじめの認知件数…児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査  
 在籍者数…学校基本調査

### (4) 不登校

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査によると、児童・生徒 1,000 人当たりの不登校者数は、千葉県は小学生及び中学生は全国より低い値で推移していたが、全国と同様に増加していた（図 17）。令和元年度の千葉県の不登校者数は、小学生 2,363 人、中学生 5,309 人、高校生 2,845 人であった。

注) 不登校：年度間に連続又は断続して 30 日以上欠席した児童・生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者（ただし、病気や経済的理由による者を除く）

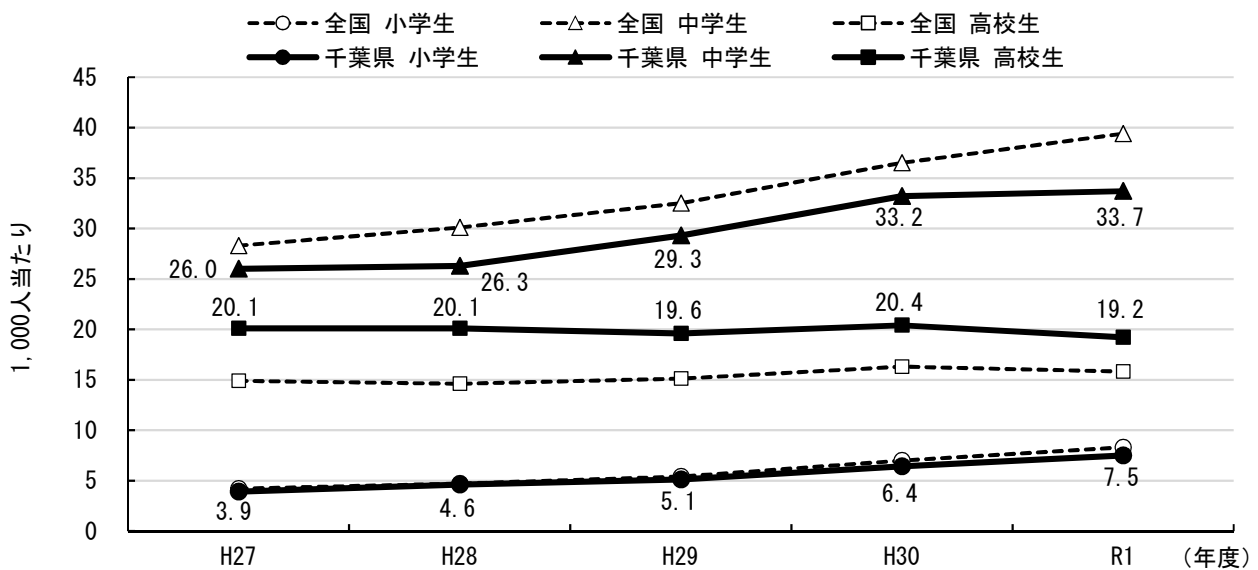


図 17 不登校児童・生徒数の推移（千葉県・全国）

出典 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

### (5) 中途退学(高校生)

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査によると、千葉県の中途退学率は、平成 27 年度及び平成 28 年度は全国より低い値で推移し、平成 29 年度及び平成 30 年度は全国と同水準であったが、令和元年度は全国より低い値となった。近隣都県と比較すると、千葉県は東京都、神奈川県及び茨城県より低い値で推移していた。一方、埼玉県と比較すると、平成 27 年度は同水準であったが、平成 28 年度以降は高い値で推移していた (図 18)。

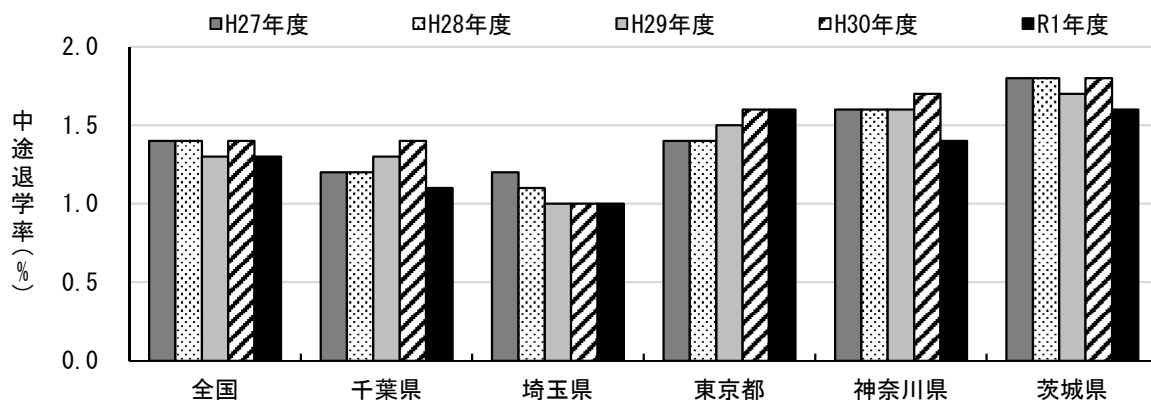


図 18 中途退学率(高校生)の推移 (全国・千葉県・近隣都県)

出典 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

### (6) 児童相談所における児童虐待相談の対応件数

福祉行政報告例によると、児童相談所における児童虐待相談の対応件数は、千葉県は全国と同様に増加しており、令和元年度は前年度と比較して1,655件(18.3%)増加した。平成 23 年度までは身体的虐待の割合が最も大きかったが、平成 24 年度以降は心理的虐待の割合が最も高く、令和元年度の心理的虐待の割合は全体の 45.8%であった。また、身体的虐待の割合は、平成 22 年度以降は減少傾向にあったが、平成 30 年度から増加し、令和元年度は全体の 30.4%であった (図 19)。

注 1) 心理的虐待：言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(ドメスティック・バイオレンス：DV) など

注 2) ネグレクト：家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など

(出典：厚生労働省ホームページ「児童虐待防止対策」)

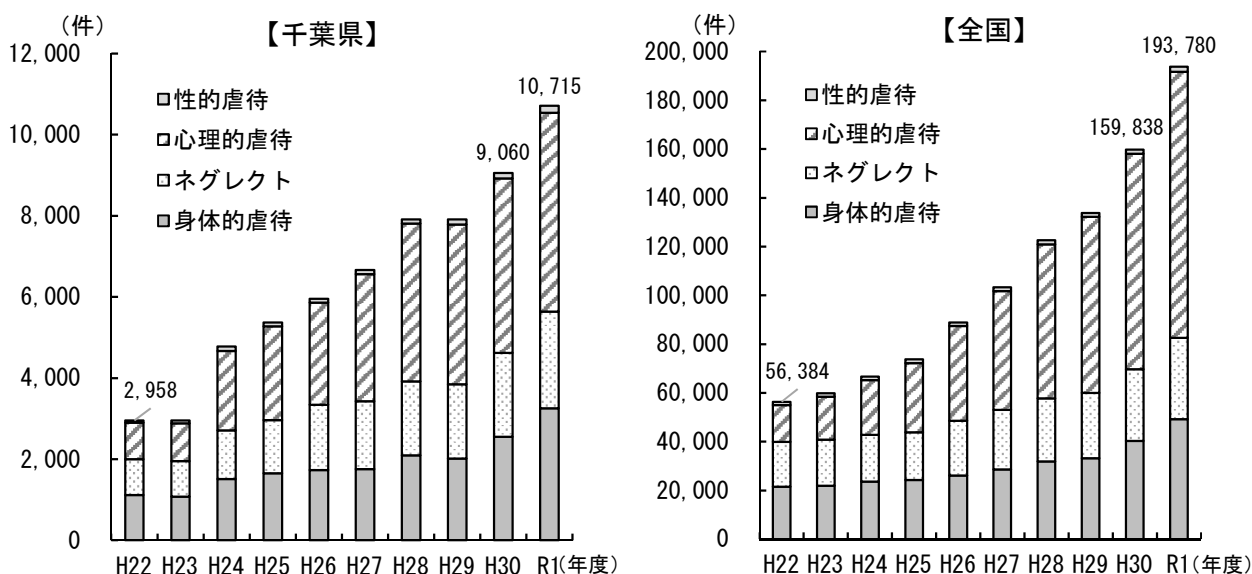


図 19 児童相談所における児童虐待相談の対応件数 (千葉県・全国)

出典 福祉行政報告例

## (7) 月別自殺者数

自殺統計原票データから、平成 25 年～令和元年に県内で発見された児童・生徒・学生の自殺者について、自殺月別の人数をみると、大学生及び専修学校生等の合計では 3 月と 11 月が多かった一方で、小学生、中学生及び高校生の合計では 9 月と 4 月が多かった（図 20）。

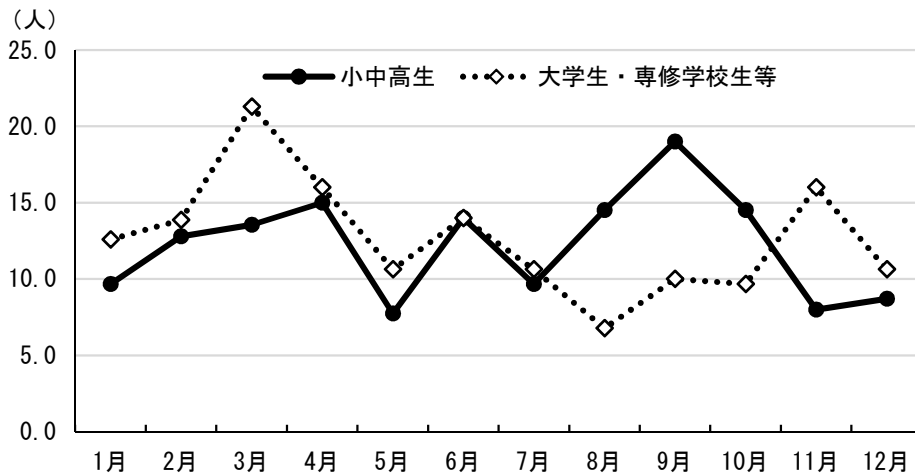


図 20 平成 25 年～令和元年合計の児童・生徒等の月別自殺者数（千葉県）

注) 月の日数差の影響を除くため、1 か月を 30 日と計算して調整した。

出典 自殺統計原票データ

## 1.3 自殺未遂の状況

### (1) 自殺未遂歴の有無

平成 27 年～令和元年の自殺統計原票データから、県内で発見された自殺者 5,196 人のうち、自殺未遂歴のある者は 941 人で、男性 514 人、女性 427 人であった。自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合をみると、自殺未遂歴「あり」の者は、男女ともに 30 歳台が最も多く、全ての年齢階級で女性が男性を上回っていた。特に、20 歳台及び 30 歳台の女性では、自殺未遂歴が「あり」の者が 40%以上であった（図 21）。（資料編・附表 17 参照）

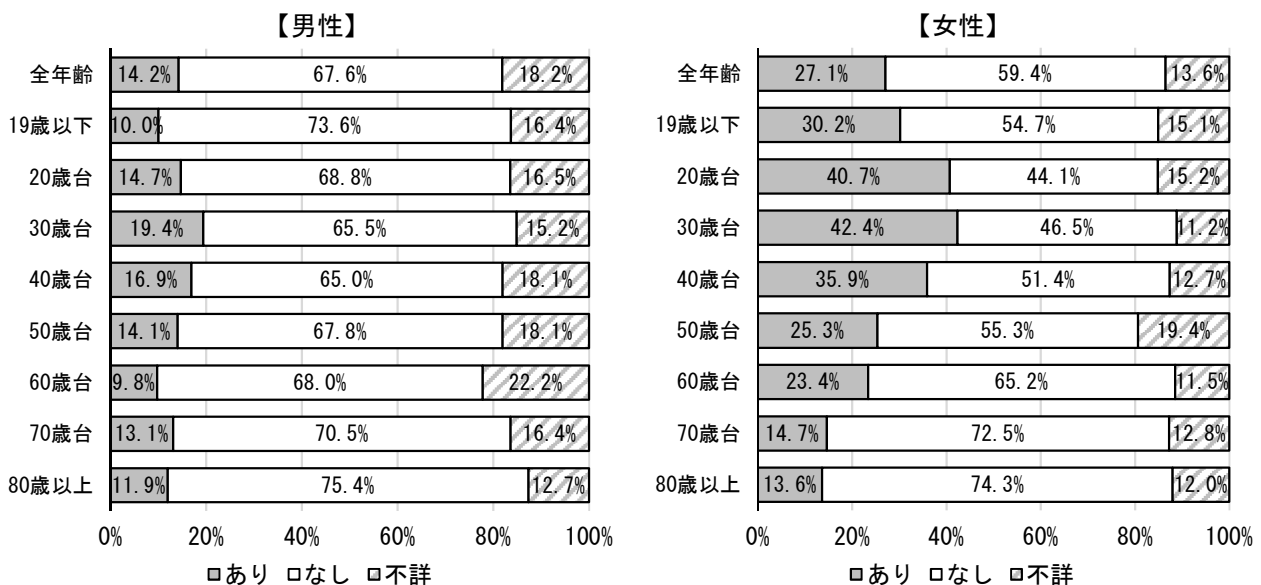


図 21 平成 27 年～令和元年合計でみた自殺未遂歴の有無別自殺者数の割合（千葉県）

出典 自殺統計原票データ

## (2) 救急出場件数及び搬送人員

県消防課の消防防災年報によると、自損行為による救急車の出場件数及び搬送人員は、平成 26 年以降減少していたが、平成 30 年は前年より増加した。また、平成 30 年における全出場件数に占める自損行為の割合及び全搬送人員に占める自損行為の割合は、それぞれ 0.8%及び 0.6%であった。

自損行為による救急搬送人員と自殺者数との関連を見ると、毎年、自殺者数の 1.7 倍～2 倍程度の者が自損行為により救急搬送されていた（表 7）。（資料編・附表 19、附表 20 参照）

表 7 事故種別救急出場件数及び搬送人員 年次別推移（千葉県）

区分 年	出場件数					搬送人員					(参考) 自殺者数 (人口動態統計)
	出場件数計	急病	交通事故	自損行為	その他	搬送人員計	急病	交通事故	自損行為	その他	
H26	297,758	185,448	26,083	3,074	83,153	265,818	168,025	26,089	2,020	69,684	1,215
H27	305,160	191,162	25,406	2,989	85,603	271,745	172,935	25,387	1,957	71,466	1,182
H28	310,602	195,933	24,762	2,832	87,075	277,167	177,656	24,644	1,917	72,950	1,026
H29	317,578	199,690	24,931	2,573	90,384	283,825	181,466	24,754	1,714	75,891	990
H30	331,042	211,266	23,760	2,778	93,238	293,809	190,848	23,353	1,822	77,786	1,029

出典 自損行為による救急搬送人数…千葉県消防防災年報、自殺者数…人口動態統計

## 1.4 自殺に関連する相談の状況

### (1) 精神保健に関する相談

精神保健福祉センター年報によると、電話相談専用回線による令和元年度の電話相談件数は 4,103 件で、前年度より 604 件（12.8%）減少した。一方、内容別にみると「自殺関連」の相談は 374 件で、前年度より 54 件（16.9%）増加した（表 8）。

表 8 精神保健福祉センターへの電話相談内容

年度	相談件数	相談内容				
		ひきこもりの問題	自殺関連の問題	犯罪被害の問題	発達障害の問題	その他
H27	6,140	112	357	32	208	5,431
H28	5,073	79	264	27	218	4,485
H29	4,713	153	318	29	195	4,018
H30	4,707	139	320	30	209	4,009
R1	4,103	75	374	25	141	3,488

出典 千葉県精神保健福祉センター年報

### (2) 「千葉いのちの電話」への電話相談

社会福祉法人千葉いのちの電話の事業案内によると、平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の 1 年間の電話相談の受信数は 17,607 件で、そのうち自殺傾向は 2,326 件（13.2%）で見られた（図 22）。

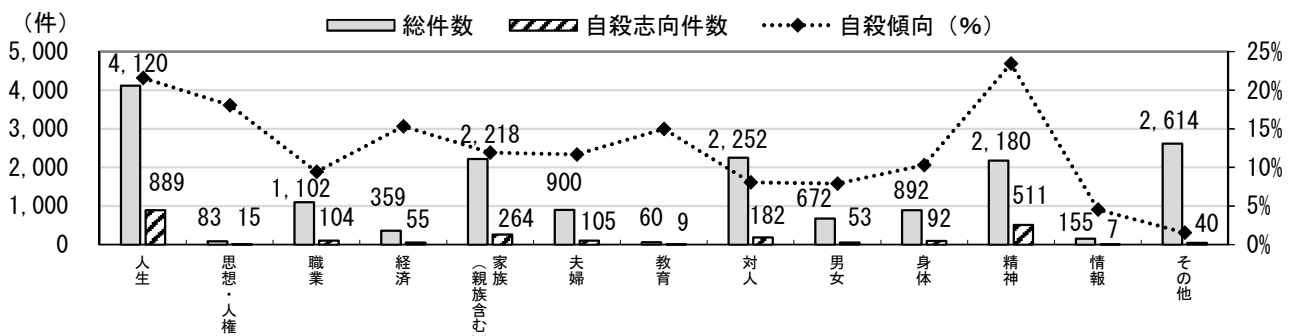


図 22 千葉いのちの電話への電話相談内容別相談件数と自殺志向の割合：平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月

出典 社会福祉法人千葉いのちの電話 令和 2 年度版事業案内

#### IV おわりに

令和2年1月に新型コロナウイルス感染症の国内初の感染者が確認されてから1年が経過した。

自殺統計（暫定値）によると、令和2年に千葉県で発見された自殺者数は、男性648人、女性375人であった。平成25年～令和元年の月別自殺者数の平均と比較すると、男性は14.0%減少した一方、女性は11.8%増加した。女性の自殺者数は、平成25年～令和元年の平均と比較して、8月が77.7%増加と顕著であり、9月以降も平均より多く推移していた（図23）。

また、社会福祉法人千葉いのちの電話の令和2年度版の事業案内によると、新型コロナウイルス感染症に関する相談が総受信数に占める比率は、月を追うごとに上がっていた（図24）。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会状況や生活環境の変化により、こころに不安を抱える人が増加していることから、今後の動向を引き続き注視する必要がある。

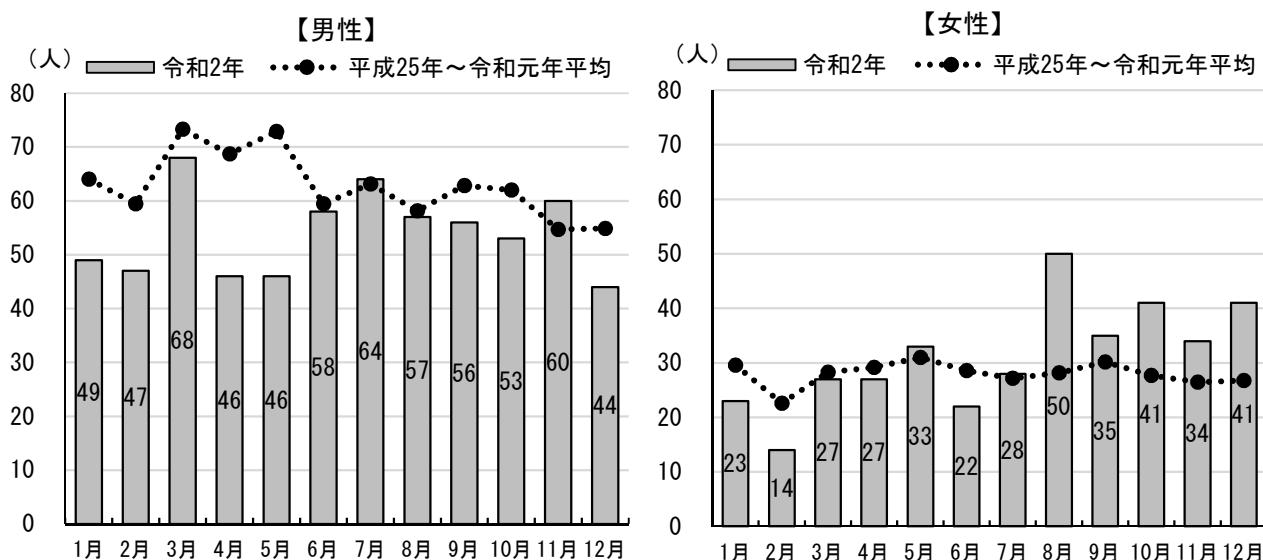


図23 令和2年の自殺者数及び平成25年～令和元年平均の自殺者数（千葉県）

注1) 千葉県の自殺者：「県内で発見」された住居地が県外の者を含み、「県外で発見」された住居地が県内の者を含まない。

注2) 令和2年各月の自殺者数は翌月公表の自殺統計（暫定値）を用いたため、今後国が公表する確定値と異なる可能性がある。

注3) 各月の自殺者数は発見日に基づく数値のため、自殺日に基づく月別の自殺者数とは一致しない可能性がある。

出典 令和2年…自殺統計（暫定値）、平成25年～令和元年…自殺統計原票データ

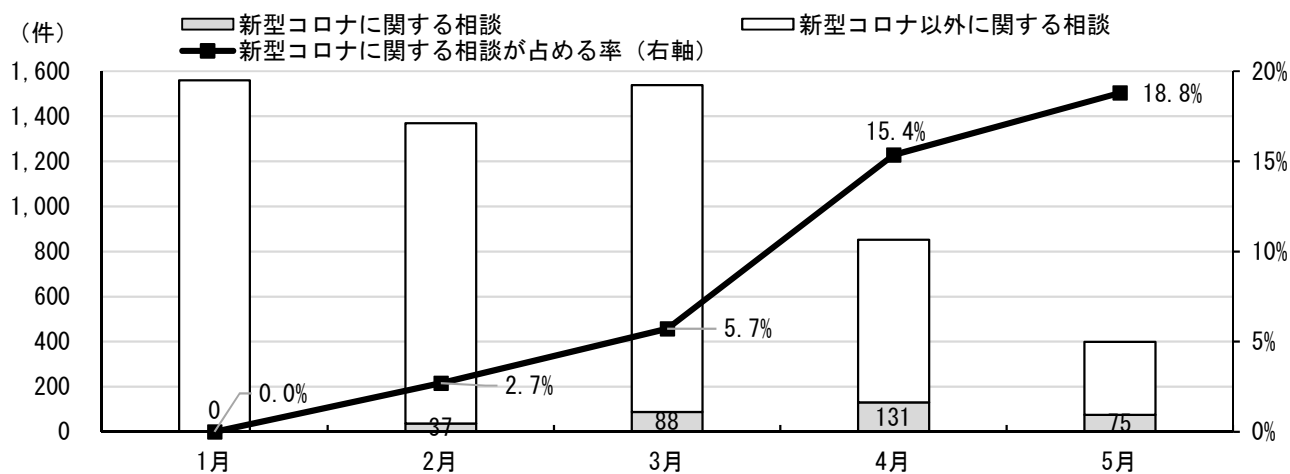


図24 千葉いのちの電話への電話相談内容：令和2年1月～5月

注) 千葉いのちの電話の電話相談時間

～4/10 24時間、4/11～4/14 7:30～21:30、4/15～5/31 平日9:00～17:00

出典 社会福祉法人千葉いのちの電話 令和2年度版事業案内